

北九州医療・介護連携プロジェクト (北九州とびうめネット連携事業)

現在検討中の北九州とびうめネット連携事業は、福岡県医師会が運用中の診療情報ネットワーク（通称「とびうめネット（※）」）を活用し、同意を得た市民の医療・介護情報（レセプト情報）を医療機関で共有することにより、医療・介護等専門職が的確かつ効率的に連携し、切れ目のない医療・介護サービスを市民に提供する事業です。

今後、福岡県医師会、北九州市医師会、各区医師会などと協議をすすめ、令和元年秋ごろから八幡東区・八幡西区でモデル実施するものです。

※とびうめネット：医師が入力した患者情報を医療機関で共有し診療に役立てるもの。

1. 経緯

高齢社会の進展に伴い、市民が救急搬送された際や入院した際に、意識がなかったり、高齢独居や認知症の方、老老世帯の方であるために、これまでの病歴や服用中の薬、居宅介護支援事業所などの基本的な情報を病院にうまく伝えることができないといったケースの増加が見込まれます。この際、病院関係者は

- ・患者本人の既往歴や薬等の医療・介護情報がわからないまま、治療を行うことになる
- ・患者の居宅介護支援事業所がわからないまま退院に向け調整を行うことになる

といった不都合や支障が生じています。

こうした現状を改善するために、24時間必要に応じて、医療関係者が患者の基本的な医療・介護情報をとびうめネットで共有することができる仕組みを構築することとしました。

2. 事業内容

事業主体：福岡県医師会、北九州市医師会、各区医師会、北九州市の共同事業

対象者：要介護（要支援）認定申請者を中心に、とびうめネットに自身の医療・介護情報を提供することを承諾し、本事業に登録した者

提供情報：基本四情報（氏名（カナ氏名含む）、住所、生年月日、性別）

医療機関名、傷病名、投薬、調剤（医薬品名など）

要介護度、認定期間、サービス事業者名（居宅介護支援事業所等）

※福岡県国民健康保険団体連合会の有する

後期高齢者医療制度、国民健康保険、介護保険のレセプトデータ等から抽出

3. 今後のスケジュールについて

令和元年秋ごろ 八幡東区・八幡西区でモデル実施（予定）

令和2年春 効果検証

令和2年春以降 全市展開（予定）

※ 必要に応じ、病院、診療所、居宅介護支援事業所等を対象にした説明会を開催